

当センター、「第1回 国際協力機構 (JICA) 理事長表彰」で感謝状を拝受

去る10月1日(金)、国際協力機構(JICA)で行われた「第1回 JICA 理事長表彰」表彰式において、当センターがその荣誉に浴しました。当センターの森仁美理事長が出席し、国際協力機構緒方貞子理事長から感謝状を拝受しました。この JICA 理事長表彰は、国際協力事業団時代に毎年実施されてきた「国際協力功労者表彰」に準拠して、今回が第1回目で16人、8団体が選ばれました。当センターは、1990年の設立以来15年間にわたって、①研修事業におけるプログラムの企画・実施、②中国、メキシコ等における環境センタープロジェクトの支援事業、③ JICA 環境社会配慮ガイドラインや開発途上国の廃棄物分野協力に関する知見の提供など、JICA の環境分野事

業実施への協力並びに途上国の持続可能な開発の実現に向けたさまざまな事業において貢献したことが受賞の理由です。この受賞の喜びを会員企業や関係者の皆様と分かちと共に、これを機に、国際環境協力への今後一層の努力の傾注という新たな思いに駆られました。

(OECC 専務理事：片山徹)



廃棄物分野国際協力研究会報告書「廃棄物分野における国際協力のあり方」の概要紹介

本報告書は、平成14年度から15年度にかけて当センターで設置された「廃棄物分野国際協力研究会」における検討結果を取りまとめたものである。

環境庁より環境省への再編に伴い、廃棄物分野の所管が旧厚生省より環境省へ移管されたことにより、廃棄物分野の国際協力においても環境省が主導的な役割を担うこととなった。このため、国際協力における廃棄物分野について、今後日本が行う支援・協力等について、現況を踏まえ、将来のあり方について検討を行う必要が生じた。本研究会は、このような背景の下に平成14年4月に設立され、学識経験者、実務経験者、企画・協力担当者及び事務局より構成された。

廃棄物管理の第一義的な目標は、公衆衛生の向上である。し尿と並んで廃棄物を居住域から排除することは、ベクターコントロールの最も基本的な手段である。公衆衛生の向上に当たっては廃棄物関連業務従事者に対する健康配慮も重要である。他方、廃棄物管理にとって、3Rに代表される資源循環型社会を推進させることも重要な目標である。産業・市場メカニズムに基づく廃棄物の減量化や、リユース・リサイクル率を向上させ、資源

投入量あたりの生産効率を増大させることが求められている。最後に、廃棄物管理システムを構築・改善していくにあたって考慮すべき点として、段階的アプローチを取り入れることの重要性も指摘できる。

「ごみは社会の鏡」とも呼ばれるように、廃棄物問題は社会の多方面と複雑な関連をもっている。そのため、廃棄物問題を考えるにあたって、廃棄物そのものに注目するだけでは不十分であり、一見無関係に思われる社会現象にも十分気を配ることが、極めて重要である。そして、その改善にあたっては、廃棄物管理システムの改善にとどまらず、産業構造の転換、ガバナンス能力の強化、生活様式の変革など多岐にわたる努力が必要である。

本報告書は、廃棄物分野の抱える問題を包括的に捉え直すことを試みており、その意味において、本報告書は業務手引きのような問題解決書ではなく、基礎的知識としての問題提起書にあたる。本報告書が、廃棄物分野の国際協力に携わる方々、また、今後携わる方々の参考としてご活用いただければ幸いである。

最後に、研究会の共同事務局として運営にご協力頂いた、財団法人廃棄物研究財団、及び財団法人日本環境衛生センターに心より感謝申し上げる次第である。

(OECC 技術主幹：斉藤貢)